

編集後記

国立大学法人となって3年目を迎え、当工学研究科・工学部技術部は、全学技術センター一部局系技術支援室工学技術系として多様な依頼業務に対応している。依頼される業務をその支援内容によって関連する技術系で担当することが通常となった今日、各技術系独自の活動も次第に盛んになってきている。平成7年度から技術部の研修技術発表報告集として発行された本報は、平成10年度からは「技報」と改め、当該年度の技術部活動等も含めた技術部総括の報告書として発行している。

技術をもって研究教育を支えている大学内の技術部は高度な技術を取得し、研究者と密接に連携をとりながら技術支援はもとより創造性豊かな技術開発を目指す部署である。より存在感のある技術部を目指すためには、大学における高度化・複雑化する教育・研究や大学の社会に対する役割に応ずるための研修研鑽や、個人や組織の更なる意識改革が重要である。団塊世代の退職に伴う技術の継承も含めて課題は多いが、技術職員それぞれが切磋琢磨して、工学研究科はもとより名古屋大学の発展に努力している今日、本報発刊の意義は大きい。

最後に、原稿をお寄せ頂いた技術部長をはじめ、各執筆者ならびに発刊にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

平成19年3月

工学研究科技術部広報係

佐々木敏幸	電子・情報技術系
大久保興平	環境・安全技術系
高木 誠	装置開発技術系
川出義之	分析・物質技術系
福森 勉	電子・情報技術系
早川正人	電子・情報技術系
長瀧宏弥	環境・安全技術系